



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



昭和大学病院歯科医療センターへの 第一歩

歯科病院長 岡野 友宏

わが国で「病院」という場合には病床数20床以上の入院施設(病棟)を持つものを指し、19床以下ないし無床は「診療所」といいます。一方、大学設置基準によると、教員養成校には附属施設として附属学校が必要なように、医学部・歯学部は附属「病院」を必要とします。その敷地面積も規定され、例え



ば本学の学生収容定員の場合であれば6,000平方メートル以上となります。ところで医学部と歯学部のある国立大学法人ではいま、2大学を除き、医学部と歯学部の附属病院が統合され、法人下に大学院や学部と並んで病院が位置づけられています。つまり〇〇大学医学部附属病院とはいわず、国立大学法人〇〇大学病院となり、診療科には医科部門と歯科部門が置かれます。医科と歯科が同じ傘の下に入ったこととなります。病棟、大手術室、一部の画像診断機器は病院の施設を使うことになり、効率化されるとともに安全・安心の医療を確保しやすくなりますが、医科に比較して人的にも経営的にも規模の小さい歯科は弱体化するおそれがあります。欧米の歯学部病院は隣接する医科に病棟をもつことが多く、しかし歯科診療センターとしては独立しています。昭和大学歯科病院の将来ですが、昭和大学病院の隣接地に移転し病棟を昭和大学病院に移動しますので、昭和大学病院歯科診療センターと改編されます。国立大学法人病院と同様ですが、プラス面を伸ばし、マイナス面を最小限にする配慮を要します。

さて、歯科病院におけるミッションは未来の歯科医療を担う学生・研修医に対して臨床教育を行うことと、歯学研究を推進する高度な先進医療を行うことです。これを実現する歯科病院の形態はいかなるものでしょうか。これは昭和大学病院歯科医療センターのあり方と深く関わります。

まずは臨床教育です。高齢化や医療技術の進歩に伴い、様々な疾患を持つ患者さんが「元気に」歯科を訪れるようになり、それとともに口腔を全身の一部として診る必要が高まりました。口腔の疾患が全身に

及ぼす影響についても科学的な根拠が増えました。学生の教育目標もそれに沿って変更されました。学生は将来、彼らが働く環境に類似した診療環境で教育されるべきです。臨床実習では患者さんを総合的に診る環境で教育することに加えて様々な肉体的・精神的な背景のある患者さんを診る習慣を身につけなければなりません。そうした診療部門の必要性は多くの人が認識してはいたものの、なかなか実現しませんでした。相応しい教育者が絶対的に不足していたからであり、これまでの講座制のもとではそうした指導者を養成すること自体が困難でした。講座制は確かに個々の専門領域の教育やその研究には適しているようにみえますが、大多数の学生が一般歯科医師を目指す歯科においては、従来の講座とは異なる統合された診療科と指導者が求められます。新設の「総合歯科」に期待するところは口腔を全身の一部という視点で診ることはもとより総合的な歯科医療技術の高い先生方による診療を実現することにあります。学生や研修医はここで初めて将来の自分の姿を想像しながら臨床修練に臨めます。また、地域の先生方は生涯学習にかけられる時間が限られており、現状では様々な問題を抱える患者さんを、責任を持つてみる事ができない場合があります。「総合歯科」は地域の先生方と連携することにより、生涯学習の場を提供するとともに若い歯科医師の臨床経験を増やすこととなります。

一方、大学附属病院のもう一つのミッション、それは専門診療と高度な先進的な診療を行うことにあります。研究は多岐にわたり、しかも時代とともにテーマも変化しますから、診療科の新設や統廃合、加えて教員定員の調整もあるでしょう。そのような診療科の先生方は臨床研究であっても世界で評価される業績を一定の期間内にあげることが求められますし、大学からの講座研究費ではなく外部資金で生きていく覚悟も求められます。専門診療部門はこうした先進的な研究を臨床に反映させる場として存在します。

歯科が厳しいか否かに関わらず、歯科病院は時代とともに変化しなければなりません。それには様々な学習機会を通じて将来を見通せる力をつけ、その上で組織改革を断行できる柔軟性と勇気が求められることでしょう。昭和大学病院歯科医療センターへの衣替えはそのいい機会になると思います。

至誠塾が開設されました

歯学部長 宮崎 隆

去る4月8日(水)に旗の台校舎1号館5階カンファレンスルームにおいて、昭和大学至誠塾の入塾式が行われました。本塾は学校法人昭和大学の小口理事長が、昭和大学が開学の精神を尊重しつつ、将来にわたり発展していくために、すぐれた人材を育成することを決心し、法人の直轄組織として設置しました。塾長には理事長が就任し、細山田学長、久光総務担当理事、宮崎財務担当理事、上野事務局長が副理事長として補佐することになりました。原則として35歳以下の専任職員が対象であり、選考を経て入塾を許可された第1回生は、医学部3名、歯学部・薬学部・富士吉田教育部各1名、総務部・人事部・薬剤部・看護部・放射線部各1名の合計11名でした。歯学部からは唐川亜希子先生(歯科薬理学教室助教)が選考されました。修業年限は2年間で、毎週水曜日の午後6時から9時までの履修であり、建学の精神と大学の歴史に始まり、大学に関係する法律、財務、学務、病院管理など幅広い講義スケジュールが組まれています。次年度以降も募集しますので、関心のある方は宮崎まで問い合わせください。



科学研究費補助金が内定しました

研究活動委員会 上條 竜太郎

去る4月11日、文部科学省並びに日本学術振興会は、平成21年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。昭和大学全体では採択件数167件、採択金額は2億3,720万円で、件数では昨年度と比較して21件の増加でした。歯学部の採択状況は下表の通りで、採択件数は80件、採択金額は1億2,390万円で、昨年度と比較して6件、40万円の増加でした。新規採択のうち、種目別では、基盤研究BとCの採択件数が低下した一方で、若手研究Bの新規採択件数が6件増加し、挑戦的萌芽も2件採択されました。現在、科研費のほとんどの種目で、表に示す直接経費(申請者に支給される研究費)に加えて、間接経費が交付されます。間接経費は、大学等の研究機関に交付され、研究環境の整備等に用いられます。このことは、科研費を多く持っている大学ほど補助金が多く配分され、研究環境の整備が進むことを意味し、科研費の獲得は、歯学部の研究活動を円滑に維持するだけでなく、研究環境の整備にも重要です。一方、歯学部の採択金額は、昭和大学全体の採択金額の52.2%にあたります。今秋の科研費申請に際しては、申請資格をお持ちの先生は積極的にご申請下さいますようお願い申し上げます。

研究種目	平成20年度			平成21年度		
	採択件数		内定金額	採択件数		内定金額
	新規	継続		新規	継続	
基盤研究A	0	0	0	0	0	
基盤研究B	2	3	24,200	1	3	17,200
基盤研究C	18	15	42,800	14	21	45,000
若手研究B	14	16	43,900	20	15	54,000
若手研究スタートアップ	4	4	10,800	申請中	4	4,800
挑戦的萌芽研究	0	2	1,800	2	0	2,900
合計	34	40	123,500	37	43	123,900

(採択金額は新規・継続の合計で、単位は千円)
(採択金額は直接経費のみ)

富士吉田兼務教員に就任しました

歯科理工学教室 准教授 玉置 幸道

今年の4月より富士吉田の兼務教員として、1年生の指導担当になりました。富士吉田の1年生は医学部、歯学部、薬学部と保健医療学部の学生で約600名もの大所帯です。現在は各学部から数名教員が本校からの兼務として吉田に出向き、学生の指導を行うことになっています。つい数か月前までは高校生であった学生がほとんどで、しかも同じ部屋で何名かと同居する寮生活に加えて、敷地内に同世代の異性も多くいるのですから、カルチャーショックを受ける生徒もたくさんいると思います。兼務ですので頻りに吉田には行けませんが、なるべく顔を出して学生に信頼されるように頑張りたいと思います。



平成20年度 同僚評価トライアル報告

教育委員長 佐藤 裕二

授業の質の向上を目的として、平成20年度は有志17名の教員によるトライアルを行いました。評価者の意見としては「ぜひ本格実施を行うべきである」という意見が多く、評価される教員は「緊張感を持って講義ができた」、評価する教員は「参考になった」など、双方に有用な効果がある場合も多くありました。

ただ、「まずは各自で努力すべきである」という意見や、「時間的負担」「方法の問題点」についての指摘もありました。評価方法などについての十分な検討を行い、本年度の正式実施を行うことが4月の教授総会で承認されました。なお、今回、トライアルに参加いただいた教員のうち、学生評価最優秀賞を関講師(歯科放射線:右写真)、教員評価最優秀賞を馬場教授(歯科補綴)が受賞されました。ますますの活躍を期待したいと思います。



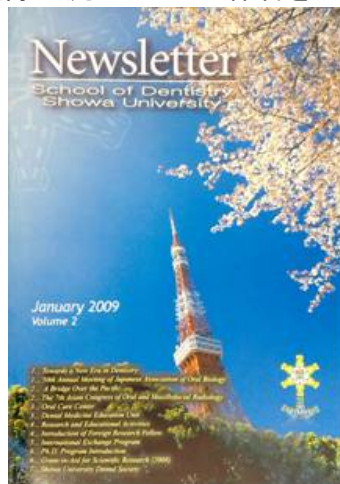
英文 Newsletter 第2号 発行

広報委員長 井上 富雄

歯学部英文広報誌 Newsletter 第2号が発刊されました。表紙は創刊号と趣を変えて、「東京タワーに桜」の写真を採用し春らしく明るくものとなりました。

掲載記事の内容は、宮崎学部長の巻頭言、第50回歯科基礎医学会の開催(会頭 口腔病理学教室 立川教授)、歯科矯正学教室と米国 カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)との国際交流、第7回アジア口腔顎顔面放射線学会の開催(会頭 歯科放射線学教室 岡野教授)、口腔ケアセンターの開設、歯科医学教育推進室の開設、口腔生化学教室の紹介、海外研修生の紹介、国際交流センターの活動、南カルフォルニア大学からの選択実習生の受入、本学大学院を修了した留学生の紹介、科学研究費補助金等の競争的外部研究資金の獲得状況、昭和歯学会報告です。

Newsletter 第2号は海外学部間提携校や国内の4大学交流校を始め、昭和大学医・歯・薬・保健医療学部と富士吉田教育部、さらには附属病院などに配布すると共に、昭和大学歯学部ホームページ http://www10.showa-u.ac.jp/~dent/dent_letter.html に掲載いたしましたので、是非ご覧いただければと思います。また、別刷りは国際交流センターに保管をお願いいたしましたので、是非、海外交流などの際にはお問い合わせいただき、ご活用いただければと思います。英文広報委員:宮崎 隆(歯学部長)、井上富雄(広報委員長)、Suzanne knowlton、堀田康弘、松田幸子、野中直子、坂井信裕、滝口 尚(敬称略)



第6回アジア補綴学会に参加して

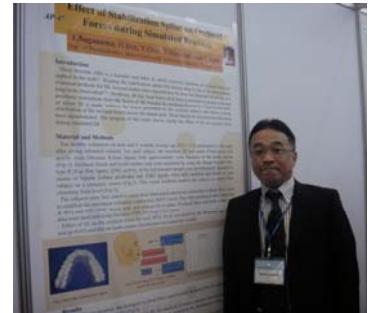
歯科補綴学教室 伊東 令華

4月24日から3日間にわたり、韓国・ソウルで行われた第6回 Asian Academy of Prosthodontics に参加いたしました。この学会は、日本、中国、韓国などアジア諸国が所属する学会として2年に1回開催されており、今回韓国補綴学会と共催で行われました。

日本からも各地区からのアクセスが充実していることやウオン安の影響?から参加者も多く、地元韓国に次ぐ演題が出されており、日本補綴学会理事長、副理事長など日本を代表する先生方が招待講演をされました。当教室からも馬場教授が補綴学会の国際渉外担当理事として出席され、インプラントや補綴材料

に関するフォーラムの座長を務められました。

また、菅沼講師が「Effect of Stabilization Splint on Occlusal Forces during Sleep Bruxism」のタイトルで発表されました。今回は共同演者として参加したので、いつもの発表時のような緊張することなく、じっくり先生方の発表を聞き勉強することができました。また、学会に参加し同じ分野を研究している先生と話すことは、自分の研究へのモチベーションもあがり、大変有意義な3日間でした。



学長杯ゴルフコンペが開催されました

歯科補綴学教室 菅沼岳史

4月29日の昭和の日に第8回学長杯ゴルフコンペが千葉の森永高滝カントリークラブにおいて、学長、理事長および医学部、歯学部、富士吉田教育部の教授、名誉教授、准教授、講師の先生方34名が参加して開催されました。快晴、微風のベストコンディションのなか、口腔生理学教室の井上富雄教授が43-47の好スコアで見事優勝されました。また、口腔外科の真鍋准教授が41-41のこれまた好スコアでベストグロス賞に輝きました。学長も4位に入賞され大変満足されていたりしました。帰りのバスはアクアラインの割引の影響もあり大渋滞でしたが、他学部の先生方とゴルフを通じて親睦を深めることができた昭和の日となりました。

歯学部同窓会ポストグラデュエートセミナーのお知らせ

歯学部同窓会学術委員会

昭和大学歯学部同窓会学術委員会からのお知らせです。下記にてポストグラデュエートセミナーを開催いたします。

演 題:誰でも治せる歯内治療

～歯内療法専門医が教える成功への道

講 師:澤田デンタルオフィス 院長/東京医科歯科大学非常勤講師 澤田則宏先生

日 程:平成21年7月5日(日)午前10時～午後5時

会 場:昭和大学旗の台校舎4号館500号室

受講料:歯科医師 9,000円(当日は10,000円)

スタッフ 7,000円(当日は8,000円)

お問い合わせ先:昭和大学歯学部同窓会事務局

TEL:03(3784)8077, FAX:03(3784)4029

受講ご希望の方は、事務局にお問い合わせのうえ、6月23日(月)までに申込用紙をFAXにて送信してください。

第12回国際歯周病学会に参加しました

歯周病学教室 須田 玲子

4月16日から19日まで、インドはアグラで開催された国際歯周病学会に参加しました。さすがにインドは各国から遠いと思われたのか、シンポジストを除くと97%はインド人でした。残りの3%は日本歯科大学の先生方2人と私でした。

悠久の時を流れるインド？(映画のスラムドック\$ミリオネアではそうは見えませんが)学会はのんびりと始まりました。しかし、歯周病学の世界では高名なシンポジスト達が最新の研究結果を交え活発な討論もあり、今後の研究の方向性を決める上で有意義な学会でありました。インド人のパワーを感じたのは懇親会です。初日は夕食のはずが含嗽剤に関する議論が続き(永遠に続きそうであった)、最終日の会場はディスコと化し、会長さんから若者まで夜更けまで踊りまくっていた、と思います(さすがに日本人3人は途中でリタイアさせていただきました)。

さて、アグラはデリーから200kmほど北東に位置し、世界遺産タジ・マハールがあります。200kmとはいえ車で5時間以上。何故か？道路を使っているのは車だけではなく、ヒト、自転車、バイク、3輪タクシー、ロバ、馬、駱駝、そしてもちろん牛(優先順位トップである)のためスピードが出ないのでありました。車線はあってないような状態で、車はクラクション(必需品)を鳴らしながら超美技で他を追い越していきます。しかも運転手の反射神経は半端ではなく突然飛び出てくる人々を完璧にかわしていきます。途中、3、4台の横転したトラックを横目で見つつ、スリリングなドライブを楽しんだのでありました。

タジ・マハールは当時の国王が亡くなった王妃のために建てた霊廟で、うわさにたがわず素晴らしかったのですが、はるか遠くの国王と同様、芸術品にお金をつぎ込み国を衰退させたのかと思うと何事もバランスが大事かもと、複雑な心境でありました。



昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

阿部淳子:助教(歯学部長直属:5月1日付)

専門医・認定医取得

広報委員長 井上 富雄

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 認定士取得

向井美恵(口腔衛生学 教授)

弘中祥司(口腔衛生学 准教授)

高橋浩二(口腔リハビリテーション科 教授)

綾野理加(口腔リハビリテーション科 助教)

日本小児歯科学会 専門指導医取得

島田幸恵(小児成育歯科学教室 講師)

日本小児歯科学会 専門医取得

杉山智美(小児成育歯科学教室 助教)

行事予定

広報委員長 井上 富雄

6月 5日(金):D2防災訓練

6月20日(土):父兄会総会

6月26日(金)~27(土):富士吉田寮祭

6月27日(土):富士吉田オープンキャンパス

7月 3日(金):夏期スポーツ大会壮行会

7月 4日(土):昭和歯学会

7月24日(金):3学部合同オープンキャンパス

7月29日(水)~31日(金):歯学教育者のためのWS

診療統計(平成21年4月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,324	733.0	802.0	690.6
入院患者	421	14.0	15.4	11.7

編集後記

口腔衛生学教室 弘中 祥司

みなさまGWはいかがお過ごしでしたでしょうか。今年は9月にも大型連休があり、もう予約も多くみられるとか。早めにプランを立てなくてはならないようです。ところが、世界的に猛威を振るっているインフルエンザ。また秋口に再燃するという予想も出ております。関東でも感染者が確認され、ますます目が離せない情勢です。

さて、6月からいよいよ夏に向けて暑い日々が続きます。梅雨入りも始まり、ジメジメとした日は嫌になってしまうものです。今年は、多機能の傘と長靴が出ているとか。早めの梅雨対策をお忘れずに。